

留 学 報 告 書

記入日:2016年11月28日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部・国際日本学科
留学先国	オーストラリア
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: 西シドニー大学 現地言語: Western Sydney University
留学期間	2016年2月～2016年11月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	School of Humanities and Communication Arts (SHCA) <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年10月31日
明治大学卒業予定年	2018年3月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:2 月中旬-6 月中旬 2 学期:7 月中旬-11 月中旬 3 学期: (記入例/1 学期:4 月上旬～7 月下旬, 2 学期:9 月中旬～2 月上旬)
学生数	約 33,000 人(留学生が 15%)
創立年	1989 年

留学費用項目	現地通貨(AS\$)	円	備考
授業料	0	0 円	交換留学(協定留学)のため留学先大学の授業料は免除。
宿舍費	9,864.00	769,392 円	大学と提携する Village の寮に居住。費用は部屋で異なる。
食費		円	
図書費	403.00	31,434.00 円	
学用品費	43.98	3,430.44 円	
教養娯楽費	268.54	20,946.12 円	
被服費	1,244.00	97,032.00 円	
医療費	143.14	11,164.92 円	
保険費	1,704.00	149,952.00 円	形態:OSHC+海外旅行保険
渡航旅費	1,047.60	81,713.00 円	往復運賃
雑費	4,103.00	320,034.00 円	留学中の旅行費用総額
その他	555.00	48,840.00 円	ビザ申請費用
その他	420.50	32,799.00 円	通信費
その他	729.00	56,860.02 円	サッカー関係費+交通費
合計	20,525.76	1,601,009.28 円	[AS\$1=78 円]で換算

渡航関連

渡航経路: 往路: 東京→ケアンズ→シドニー
復路: シドニー→ゴールドコースト→東京

渡航費用

チケットの種類	エコノミー
往路	76,430 円
復路	52,683 円
合計	129,113 円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

Jet Star の公式 HP で航空券を手配。(渡航5週間前)

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舎など)

大学内のアパート (Western Sydney University Village)

2) 部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数)

3) 住居を探した方法:

大学の留学生用ホームページにて、「Where to Live」の項目から、「On Campus Accommodation」の大学と提携している寮を選択。

4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

部屋の設備や大学の近さを考慮するととても質の高い住居だと思います。初めのうちはよく寮のイベントにも参加したため友人ができました。ただやはり、いくつかの部屋は現地のオーストラリア人学生が夜にはしゃいでいて騒々しいと思う日も少なくないです。

現地情報

1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった
 利用した:

2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

幸い、特に大きなトラブルはなかったので誰かに相談したということはありません。大学の留学コーディネーターの方は非常に優しく学生思いのため、話を聞いてくれると思います。

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

在留届を外務省に提出していたので、領事館からメールでシドニー及びオーストラリアの危険情報等を受信しました。9月の頭頃、ISIS 関連テロへ警戒を強めるようにと連絡を受けました。観光地などの人の多く集まる場所では気を引き締めて行動することが大切だと思います。

4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

大学内の WiFi は然程悪くはないと思います。時折全く繋がらなくなることもあったものの、通信も比較的スムーズなので問題なかったです。街では大きなショッピングモールあるいはマクドナルド等のチェーン店ならフリーWiFi を拾えるといった印象があります。私はオーストラリアでテザリングできる携帯電話をレンタルしていたので、街では基本的にそこからWiFi を飛ばして、日本から持参していた iPhone を利用していました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

現地で銀行口座を開設し、日本にいる親から送金してもらいました。銀行口座は ID、住所、電話番号、初めの預金する現金さえあれば開設できます。自分は初めに National Bank of Australia に行きましたがビザのスタンプがないから口座を開けないと言われたので、そのあと Commonwealth Bank に行き、無事に口座開設できました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

シドニーの中心地に日本のスーパーが 1 店あるので、基本的にはそこでなんでも揃うのであまり心配する必要はないです。現地ですぐに友人にプレゼントできるように日本からのお土産を少し持っていくと喜ばれると思います。

進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

就職キャリア支援事務局を出国前から利用していました。また留学中には、シドニーに支店のある日系企業の訪問をしました。

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
現在就職活動中です。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
学期間休業などを利用して就職活動を進めることができます。私は複数の日系企業のシドニー支店に足を運び、駐在員の方とお話をしました。お会いしたある会社の駐在員の方が、日本で他の学生と同じようにインターンシップをするよりも、学生であるうちに留学等で有意義な時間を過ごす方が個人的な財産になるとおっしゃっていましたが、私も全くそのように思います。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
80単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Politics of Australia and Asian Relations	オーストラリアと関連アジア諸国の政治
科目設置学部・研究科	International Relations and Asian Studies (SHCA)
履修期間	Autumn Semester 2016 (2月~6月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャリアル (レクチャー+チュートリアル)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Diane Coleman
授業内容	オーストラリアの対アジア外交・政策を色々な側面から分析していく科目でした。まずオーストラリアの伝統的な政治体制について学び、その後オーストラリアのアジアの関係諸国として中国と日本、インド、インドネシアとの国際関係を理解しました。第二次世界大戦以後オーストラリアがこれらの国とどのような関係を築き、アジアの中で存在感発揮してきたか、そしてこれからどのような役割が求められていくかなどについて学習しました。
試験・課題など	【(以下すべての科目同様)課題は3つあり、その3つのみで成績が決まります。(出席はとりませんがカウントされません)更に、それらの課題は学期中に並行して進めなくてはなりません。(大学の設定指定しているテスト期間に行うテストがありません)】レポート 30%とジャーナル 30%、プレゼンテーション 40%でした。レポートは要約のようなものでしたが、ジャーナルは自分の視点で批判的な分析を行うものでした。プレゼンテーションはグループ形式で、オーストラリアの「豪ウランの対インド・中国輸出について」政策案を発表するものでした。どの課題も自分の頭で考え、与えられた制限の中で論理的かつ効果的に説明する必要がありました。
感想を自由記入	授業に必要な予習の量も多く、授業内容も簡単ではありませんでしたが、非常に興味深い内容でした。教授はどんどん指名して学生の意見を求めていくタイプの人だったので、それに十分対応できるよう毎回の準備に一番力を注ぎました。授業はグループに分かれて進められていくので、そのグループ内で協力しながら勉強できた点もよかったですと思います。まさに留学をしている実感のわくような授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Global History	グローバル化の歴史
科目設置学部・研究科	History and Political Thought (SHCA)
履修期間	Autumn Semester 2016 (2月-6月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・チュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が2回
担当教授	Gregory Barton
授業内容	グローバル化、国境を越えた国や文化の交流あるいは衝突を古代まで遡り、現代のグローバル化までの特徴などを分析していく科目でした。宗教の伝播や大航海時代以後の移住の歴史、啓蒙革命や産業革命の広がり等とグローバル化の関係性を捉え、理解する作業を毎授業行いました。講義では教授がその特定の時代の背景や概要を説明し、チュートリアルでは個別のケースにフォーカスしたリーディングを元にその時代におけるグローバル化を考察します。
試験・課題など	毎週の課題として、Primary Sources のリーディングが与えられました。Primary Sources とは歴史上の出来事その当時に書かれた文書(手紙や法律など)のことです。文法も現在のものと違っていたりするため、非常に難解でした。成績は5回の in-class exam とショートエッセイ、そしてエッセイの3つでした。ショートエッセイでは「グローバル化が15世紀以前から起きていたか」について論じ、エッセイでは「16世紀以降のパラダイムシフト」について論じました。
感想を自由記入	履修した科目の中で一番大変な授業でした。歴史に関して大学で勉強したことがなかったため、それをいきなり英語で学ぶということが負荷の高いものとなりました。中でも Primary Sources の読解、その要約はネイティブの友人の助けなしにはできませんでしたが、エッセイもなかなか進まずに苦勞しました。ただ、学んだ内容としては新鮮で、自分の専攻でもある国際関係論をよりよく学習するためにも役に立つ内容だったと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Asia in the World	世界の中のアジア
科目設置学部・研究科	International Relations and Asian Studies (SHCA)
履修期間	Autumn Semester 2016 (2月-6月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー(レクチャー+チュートリアル)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Peter Mauch, Karen Entwistle
授業内容	昔から現代において、アジアの多様性を地球規模の背景で考察する科目でした。どのようにアジアを定義するか、どのようにアジアの国同士が関わっているか、そしてどのように西洋の価値観がアジアの国々に影響を与えてきたかについて分析しました。個々の時代や国々を、政治や経済、宗教、文化、社会などの様々な観点から深く考察する授業で、日本に関しては、江戸時代から明治時代の流れにおける西洋価値観の影響と第二次世界大戦後の社会の変遷を取り扱っていました。
試験・課題など	試験は小テストが6回、ショートレポートが5回、そして期末のエッセイがありました。小テストは各週のリーディングに基づいた基礎的な内容のクイズで、ショートレポートは、各週のリーディング及びその他の教材(YouTube のビデオクリップやニュース記事)をもとに、その内容の短い要約と分析を行うものでした。期末のエッセイでは、現代のアジア諸国家及び諸地域に関係のある歴史を考察するもので、題材は20個以上用意されていました。その中で私は「秦朝統一の経緯と中国政治基盤の形成」について論じました。
感想を自由記入	リーディングの量は非常に多いものの、世界史を勉強していた自分にとって、内容そのものは難しくはありませんでした。まさに英語でアジア地域のポピュラーな歴史について学び、現代との繋がりを考える授業でした。アジア地域の国際関係論を専攻している自分にとって、アジアの多様性や戦争を含めた歴史的な交流を理解することは欠かせないため、とても有意義な授業でした。グループワークもあって、ディスカッションの機会が多くありました。課題としてのプレゼンテーションはなかったけれど、グループで話した内容をクラス内で共有する場面は多くあり、緊張したり、上手く話せないこともありましたが、自分も何度か挑戦しました。また教授が日本の政治を研究している方だったため、日本人である自分に対して興味をもってくれて嬉しかったです(質問がよく飛んできたので大変でしたが)。そのため改めて、日本から来ている交換留学生の持つ意味、与える影響を実感させられる時間だったと反省します。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Politics of Post-War Japan	戦後日本の政治
科目設置学部・研究科	International Relations and Asian Studies (SHCA)
履修期間	Autumn Semester 2016(2月-6月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャール(レクチャー+チュートリアル)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	David Walton
授業内容	日本が第二次世界大戦後に退廃してから、平和憲法のもと経済大国に成長するまでの過程、その後の縮小に焦点を当て、戦後日本の内政・外交について学習しました。敗戦後から主権回復までの国政から始まり、55年体制、自民党の単独独裁の中での賄賂等の政治スキャンダル、贈答社会、対アメリカ・中国政策の変遷などについて触れ、最後に憲法第9条改正問題に関してディスカッションをする授業でした。戦後日本の政治体制の特徴や現代に至るまでの流れまで、とても広くカバーされていました。
試験・課題など	プレゼンテーション、エッセイ、期末テストがそれぞれ1回ずつありました。プレゼンテーションはその週のトピックに関するリーディングやその他の文献をベースに15分程度発表するものでした。私は第3週の占領時期とその影響のトピックで、「米国占領下での日本政治家の役割は何か。またその占領体制は戦後日本政治にどのような影響を与えたか」についてを調査し、発表しました。エッセイでは日本の社会特性から政治とカネ問題について分析して論じました。文字数も多く、とても負荷の高い課題でした。最後の期末テストは論述形式で、安部首相の戦後70年談話と、日本の対外政策とその今後について分析するものでした。深い理解が求められると同時に、分析力も問われるテストでした。
感想を自由記入	教授が明治大学の政治経済学部で教えていた方で自分に対し非常に優しく、歓迎してくれたため、とても居心地のよい授業でした。ただ、ユニットレベルも高い分、リーディングを含めたその他毎週の課題がとても多く大変でした。また、日本に関する授業であったため学生は日本自体に興味をもっている人が多く、自分がよく質問を受けたため、その度に責任を感じ、とても緊張しました。この授業は戦後日本に特化していたこともあり、自分の知らないことが多くあって刺激的だった反面、もっと日本について知っておくべきだと強く反省させられました。総合的に負荷の高い授業でしたが、クラスメートや教授が自分を支えてくれたため嬉しかったのと、リーディングやクラスを通して成長できたと実感できるものでした。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Contemporary Society	現代社会
科目設置学部・研究科	International Relations and Asian Studies (SHCA)
履修期間	Spring Semester 2016 (7月-11月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー、チュートリアル(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 分が 回
担当教授	Shane Hersey
授業内容	現代社会、とりわけオーストラリアの社会について、権力や階級、人種民族、ジェンダー、科学技術、スポーツ、宗教、環境など幅広い側面から分析する授業でした。人文学部の必修授業であったために、授業そのものは比較的簡単で、内容もその他の分野に関わりのある包括的なものでした。
試験・課題など	リーディングに基づいた小テストが隔週にあつたため、合計10回ありました。また中間にエッセイがあり、期末には論述テストがありました。エッセイでは「社会的想像力とソーシャルメディアの普及」について論じました。期末テストはテクノロジー、宗教、地球環境、グローバル化の4つのトピックそれぞれについて、教科書を読み、決められたテトトークを聞いてそれぞれを論じるというものでした。それぞれ短い記述でまとめる必要があつたため、その点に関しては難しかったですが、よく理解して解答できたため点数も良かったです。
感想を自由記入	もともと取りたいと思っていた授業ではなかったけれど、結果的には満足のいく授業でした。現代社会をきちんと理解する意義や日常を観察する新たな視点を養うことができ良かったと感じます。内容もかなり総合的で、常識とは言わずとも、大学生として備えておくべき知識教養を強化することができたと感じます。ただやはり、必修だけあつてユニットレベルも低く、授業への負担が低かったり、周りの学生の意欲が低かったため、他の授業と比べるとモチベーションの保ちづらい科目ではありました。そのため、チューターと授業後に話をしたり、エッセイにも精力的に取り組むことでやる気をキープし、授業内容への理解度も増したと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to International Relations	国際関係論入門
科目設置学部・研究科	International Relations and Asian Studies (SHCA)
履修期間	Spring Semester 2016 (7月~11月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャール(レクチャー+チュートリアル)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	David Walton and Diane Coleman
授業内容	この授業は国際関係論アジア研究の基幹科目であるため、国際関係論・国際政治の重要なトピックが取り扱われました。まず、国際政治の分析視点として「個人・国家・国際社会」の3つがあることを学び、リアリズムやリベラリズムなど、様々な国際関係論の理論を理解しました。そして戦争などをはじめ、国際関係論において、国益や安全保障、自由経済、共通価値など、分析要素があることを学びました。また、現代社会の国際情勢をよりよく理解するための批判的分析やフレームワークを習得し、実践しました。
試験・課題など	5回の小テスト、小レポート、エッセイ、期末テストによって成績がつけられました。小テストはリーディング及び、その他教材に基づいたもので、きちんと準備をしていれば点数が取れるものでした。小レポートは国際関係論の理論の説明といった簡単なものでしたが、ライティングの採点基準が高く、いい点数は取れませんでした。それを反省してエッセイでは図書館のアカデミックアドバイザーを利用して、添削してもらいました。エッセイは「核拡散の効果」について論じました。最後の期末テストは、現在の国際社会での出来事、問題を国際関係論の理論に当てはめて分析するといったものでした。私は「北極資源の利用」について、大国の利益競争と地球環境保護への取り組みをリアリズムとリベラリズム双方の観点から分析しました。
感想を自由記入	国際日本学部で国際関係論の授業をまだ履修していなかったため、まさに履修したいと思っていた科目でした。学部のゼミでは環太平洋アジア地域の国際政治経済について研究するために、ここで学んだことをゼミに活かしたいという気持ちで臨みました。授業は基礎的でありながらも分析力を問うもので、一番興味のある内容を日本で学ぶためのいい準備となりました。国際関係論の大枠を理解することで、現在世界で起こっていることへの関心がさらに強くなると同時に、それに対する理解度や考察力も以前よりも格段に向上したと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
The Asian Century	アジアの世紀
科目設置学部・研究科	International Relations and Asian Studies (SHCA)
履修期間	Spring Semester 2016 (7月~11月)
単位数	10
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャール(レクチャー+チュートリアル)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Margaret Hanlon
授業内容	21世紀が「アジアの世紀」であるか、またはそのようになっていくかを、個々の国々や、地域の発展性を分析しながら、検証していく授業でした。「アジアの世紀」を定義づけるためにまず、19世紀の「イギリスの世紀」と20世紀の「アメリカの世紀」の特徴や変遷を分析しました。覇権国家としてのアメリカの地位が揺らぎつつある現在、台頭する中国のパワーや日本と韓国、インドやASEAN 一体などがどのようにして力をつけ、21世紀を色付けていくかを学習しました。最終的には、実際に21世紀を「アジアの世紀」と結論付けたのではなく、個人個人の視点でそれを分析し、意見を形成する終わり方でした。
試験・課題など	試験は3つのレポート、エッセイ、期末テストでした。レポートのうち最初の2つはリーディングの要約でしたが、最後のレポートは要約に加えて、自分なりの分析を行うものでした。エッセイは教授が用意したいくつかの題材の中から選ぶもので、私は「日朝関係の不安定性が北東アジアにもたらす影響」について論じました。文字数も多く、読むべき文献の量が多かったため、仕上げるのに時間を要しましたが、自分なりに納得のいくものが書けました。最後の期末テストでは、中央アジア、東南アジア、オーストラリアとアジアの結び付きについての論述と、「21世紀をアジアの世紀と呼ぶに相応しいか」について、自分の意見を論ずるものでした。
感想を自由記入	この授業が私の勉強の興味を一番カバーしていたと思います。ゼミで環太平洋アジア地域の国際政治経済を学ぶとはいうものの、卒業研究はもっと狭いトピックを深く学ぶことができるため、留学での学習を最後ゼミに活かしたいという思いがありました。その中でこの授業を履修し、朝鮮半島情勢や米中の覇権闘争、その中で日本の関係性や影響など、非常に興味深いテーマが多くあったため、今後の学習計画がある程度明確になりました。この授業で書いたエッセイの内容にとっても強い関心を抱くようになったため、私は卒業研究として上記のことに関連したことを深く学びたいと思うようになりました。授業としては、グループワーク中心で、周りの学生と交流、協力しながら進めていくものだったので、履修した科目の中で一番楽しい授業となりました。リーディングやその他の課題、エッセイなどは非常に負荷の高い大変な授業ではありましたが、この授業は私にとって大きな意味のあるものとなりました。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2014年 1月～3月	・大学受験終了、高校卒業
4月～7月	・大学入学、英語の勉強
8月～9月	・TOEFL iBT 受験
10月～12月	・協定留学出願(スウェーデン)→落選
2015年 1月～3月	・英語の勉強
4月～7月	・TOEFL iBT 受験
8月～9月	・協定留学出願(オーストラリア)
10月～12月	・留学が正式に確定。明治大学と留学先の大学が求める書類の整理、保険の加入、住居の確保、VISA の申請手続き ・留学先で履修する科目の予習、英語の勉強
2016年 1月～3月	・手続きは基本的にすべて完了、出国前オリエンテーション ・出国。オリエンテーションの約1週間後に授業開始(2月中旬)
4月～7月	秋学期(2月末～6月頭) 学期間休業(6月頭～7月末)、旅行と就職活動の準備
8月～9月	春学期(7月末～10月末)
10月～12月	期末試験の時期。 帰国前に旅行、帰国後は就職活動に移行。

留学体験記

留学しようと決めた理由	国際日本学部入学時は留学を全く意識していませんでしたが、学部1年の秋にTOEFL iBTを受験することが必須で、予想よりもいい点数を取ることができたことが留学を考え始めたきっかけです。ですが当時は将来の夢もはっきりしておらず、本当に留学をして意味があるのかと戸惑うこともありましたが、それでも留学をしようと決めたのは、知らない世界に自分一人で飛び込んで、その中で勉強やサッカー、新たな交友関係の構築に挑戦していきたい、そこから人間として成長したいと強く思ったからです。自分の将来像がはっきりしていなかったからこそ、日本とは全く違う環境に身を置いて多くのことを吸収し、選択肢を広げたいと考えたことが留学に踏み切った理由です。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	協定校を選ぶためにも TOEFL の点数はできるだけ高くしたいと思い、英語の勉強は必死にしました。また、学部1年の秋にスウェーデンの協定校に出願した際は、私の GPA が競争相手よりも圧倒的に低かったために落選したと反省し、学部2年の春学期は大学の勉強も真剣に取り組み、GPA をあげるようにしました。西シドニー大学への留学が正式に決まった後は英語の勉強と履修する科目に関連することの勉強を中心に行っていました。一方、私は留学前にしておくべきだったこととして主に二つ反省しています。一つ目は日本に関しての勉強です。交換留学生は、明治大学の代表であると同時に日本の代表でもあります。それなのに日本のことについてうまく話せないというのは恥ずべきことだと痛感しています。日本についてもっとよく理解してから渡航できていたら、一つ一つの会話がもっと充実したかもしれません。二つ目は現地のことに関してリサーチしておくということです。大学のこと、シドニーのこと、オーストラリアのこと、スラングなどについてよく知っていたらそれが会話のネタになります。スウェーデン人の友人はよく調べていて、いつも会話の中心にいました。自分も渡航前にもっとよく調べていたらもっと会話に混ざることができたと思います。
この留学先を選んだ理由	学部1年の時にスウェーデンの協定留学に落選した自分にとって、次のオーストラリアが就職活動の時期に重ならない最後のチャンスだったため、オーストラリアの協定校から選ぶと考えていました。TOEFL の点数的に西シドニー大学かアデレード大学からしか選べなかったため、自分の履修したかったアジアの国際関係論に関する授業がより充実していた西シドニー大学を留学先に選びました。また西シドニー大学は留学生も多く、交流の機会を期待できたこともその理由の一つです。
大学・学生の雰囲気	西シドニー大学は学生中心の学習環境が整っていると感じました。教授もよく話を聞いてくれたり、わからないことがあった時はわかりやすく丁寧に教えてくれます。また図書館にはアカデミックアドバイザーがいて、エッセイなどの課題の完成度を高めるために添削してくれる人たちがいます。それを利用していなかった秋学期に比べ、利用していた春学期ではエッセイなどの点数を大きく上げることができました。学生も国籍も年齢も幅広く、とてもオープンで留学生にはありがたい環境だと思います。まるで地球を小さくしたかのような教室でした。日本では味わうことのできないような空間で勉強することができました。
寮の雰囲気	私は4人で大学敷地内のアパートに住んでいました。まずルームメイトがオーストラリア人、ナイジェリア人、バングラデシュ人と私で構成されていて、3人もフレンドリーでとても生活しやすかったです。料理を共有したりして異文化交流することも容易でした。寮全体でのイベントは毎週あり、BBQやブランチ、映画鑑賞会、スポーツなどとたくさんありました。オーストラリアに来てからの数ヶ月間は他の交換留学生と一緒にそのイベントに行き友人を作りました。現地のオーストラリア人がかたまって仕切っており、そこにはなかなか馴染めむことができず、少し寂しく感じることもありましたが、勇気をもって話しかけると優しくしてもらえました。寮の敷地ですれ違って挨拶をする友人が多くできたため非常に快適な寮生活でした。
交友関係	私は総じて、とてもいい人たちに巡り会えたと思います。同じキャンパスで勉強している交換留学生とはオリエンテーションから仲良くなり、平日の夜や週末に出かけたりしました。勉強がなかなか追いつかず苦労しましたが、他国の友達との会話は机上の勉強とはまた異なる勉強で、非常にためになったと思います。そういった友達を部屋に招待してお寿司パーティーを開いたり、またその友人の国の料理を楽しんだりしました。ルームメイトとも料理を共有したり、夜遅くまで話をしたりと、大切な思い出もできました。大学のクラスメイトや教授にも支えられ、多くの人の助けや関わりがあって自分の留学は充実していたのだと強く実感しています。

<p>困ったこと、大変だったこと</p>	<p>一番大変だったのはやはり英会話です。もともとリスニングが得意な方ではなかったため、苦勞すると覚悟はできていましたが、予想以上に辛かったです。授業での英語は比較的ゆっくりで聞き取りやすい英語でしたが、友人、特にネイティブの会話はあまりに早く、スラングも多かったため、初めの4ヶ月くらいはついていくことが困難でした。そのため、同じ相手に何度も聞き返す勇気をもてず、ただ笑顔を浮かべているしかできない時間が精神的に苦痛でした。また、交換留学生である以上現地学生と同水準で評価されるため、努力してもなかなかいい点数を取れなかったことも大変でした。授業に向けて精一杯準備し、集中して授業を聞き、勇気をもって発言をすれど評価されるのはエッセイやテストの出来でした。英語力で現地生よりどうしても劣るため、なかなかいい点数を取れなかったことに関してはとても苦勞しました。</p>
<p>学習内容・勉強について</p>	<p>私は国際関係論、特にアジア地域研究を専攻していました。特に“Introduction to International Relations”、“Asia in the World”、“The Asian Century”という授業はまさに自分の勉強したい内容をカバーしていました。今後の学習計画もある程度定まり、朝鮮半島情勢などを含めた21世紀の北東アジアの国際関係についてもっと研究したいと思うようになりました。授業は基本的にレクチャー(20人程度)と呼ばれるレクチャー(講義)とチュートリアル(少人数授業)が合体した形態でした。教授が授業内容や重要なテーマについて説明した後は6人程度のグループに分かれてクイズをしたり、質問への答えを考えるためにディスカッションをし、その内容をクラスに向けて発表するという流れが主流でした。どの科目も毎週のリーディングやその他の準備用教材が多くて大変でした。「他の学生はこんなに時間がかかっていないだろうな」と思いながらも、時間をかけてサボらずに続けたことで留学後半にはリーディングもそれほど苦ではなくなりました。また西シドニー大学ではレクチャー・ポッドといって、授業前に視聴する30分程度のビデオの講義があります。それは授業前に視聴しておくのがマストでした。私の印象としては、授業で新たな内容を学ぶのではなく、授業では教授が用意した教材やレクチャー・ポッドで事前に内容を把握し、その内容やそれに対する自分の意見を共有する場であると感じました。</p>
<p>課題・試験について</p>	<p>私の履修した科目、特に国際関係論専攻の学生にはテスト期間に行うテストがありませんでした。言い換えると、14週間の授業期間の中に試験が組み込まれているということです。大体どの科目も、小テスト(試験①)が5→10回あり、中間にエッセイ(試験②)、期末に論述テスト(試験③)という三つで構成されていました。その合計が100%で、50%以上で単位は認定という形でした。試験の難易度は様々でしたが、エッセイはリサーチにも時間がかかり、どれも負荷の高い試験でした。何より、授業期間中に提出しなくてはならないので、普段の授業の予習と並行して進めなくてはならないということが大変でした。リーディングや授業の内容を理解し、自分の言葉で言い換えるという力が期末試験では求められました。普段の課題は、リーディングとレクチャー・ポッド、そして教授がその都度与える記事やクイズなどを授業前に進めておくということです。それによって成績はつきませんが、それを怠ると授業についていけなくなるという感じでした。リーディングに関しては、毎週4科目合計150ページは読んでいたと思います。</p>
<p>大学外の活動について</p>	<p>私は生涯ずっとサッカーを続けているため、もちろん留学先でもサッカーをしました。アマチュアの社会人サッカーチームに入団して、毎週練習して大会に臨みました。勉強との両立は日本よりもハードでしたが、リーグ戦で優勝したことはもちろん、様々な国籍のチームメイトと仲良くなって交流できたことがとても刺激的で良い経験になったと思います。最終的に州大会まで進むことができ、仲間とその喜びを分かち合えたことは私の財産です。自分の好きなことを通して繋がりをもち、日本では味わうことのできないことを経験できました。</p>
<p>留学を志す人へ</p>	<p>留学の目的は人それぞれですし、それが特別なものである必要はないと思います。大切なのは、どんな理由であれなぜ留学したいと思ったか、留学を通して何をしたいか、どうなりたいかを頭に入れた上で留學生を送ることだと思います。それらを忘れずに1日1日大切にしながら、出会った人との会話やカフェでの一休みなど、すべてを楽しんだりしていれば、きっと一生のうちで最も素晴らしい経験のうちの一つになることと思います。申請手続きから始まって、日本での生活よりも勇気が必要な場面も多いかと思えます。それでもその先にある刺激的で素敵な世界を目指し、それらの場面を多く乗り越えていってください。留学を志す人ならきっとできると思っています。応援しています。</p>

1週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中				授業			外出
	自習	自習	自習			自習	
午後			授業	授業	授業		
	自習	自習			買い物	試合	
夕刻		買い物					勉強
夜	練習	友人と食事	練習		寮のイベント		寮のイベント

